



「おんなのこ」 東1病棟 田尻 愛 (12才)



No.13 (平成18年)
 社会福祉法人 鶴風会
 東京小児療育病院
 みどり愛育園
 西多摩療育支援センター
 後援会
 一連絡先—
 東京都武蔵村山市学園4-10-1
 電話 042(561)2521(代表) 〒208-0011
 東京小児療育病院内
 Eメール tcrh@kakufuh.com

理念

私達は
 障害児者の生命機能の維持
 向上と生活援助のための誠実に
 積極的に取り組み障害児者と
 その家族を支援します

「医療的ケア再考」

総括施設長補佐 舟橋満寿子

医療的ケアという言葉をご存知でしょうか。昔は病院でしかやらなかった行為でも今は指導を受ければ在宅で安全簡単に行えて、その人の生活を支えるものです。在宅医療の推進・医療技術の進歩と共に、慢性疾患・障害があっても家庭に戻り生活する方が増えました。糖尿病のインスリン注射、睡眠時無呼吸症候群の鼻マスク人工呼吸器もそのひとつです。食事をするとむせて食べられないために胃瘻などで流動食を注入する方(経管栄養)・痰をとる吸引器が必要な方、在宅人工呼吸器を使う方などが当院にも沢山通っております。

気管切開をして走り回れる子供、酸素吸入をしながら訓練を受ける子供もよくみかけます。これらのおかげで自宅で他の兄弟と共に生活できるようになりました。

一方で医療機器のメンテナンスをはじめとして人的・物的・時間的・経済的な多くのサポートがないと父母だけではやっていけないことも多いのです。

厚生労働省は寝たきりで気管切開をして

1 頁	医療的ケア再考
2 頁	多摩小児神経懇談会・リハビリテーション医療
3 頁	歯科外来について
4 頁	月刊誌「病院」の取材
5 頁	障害者自立支援法・ふれあい看護体験
6 頁	ボランティア講座開催
7 頁	平成十八年度下半期行事計画 新入職員紹介
8 頁	障害児地域療育支援事業のご案内
9 頁	後援会だより
10 頁	ご寄付者名簿

いる患者さんの痰の吸引を家族や看護師だけでなく一定の条件のもとにヘルパーさんにも認め、肢体不自由養護学校教員にも痰の吸引や経管栄養の一部を看護師の指導の下に認めました。しかしこれらは平成十八年度に再考することとなっています。

東京小児療育病院では、呼吸・嚥下などに障害があっても健康で安定した生活が送れるように、来院しての指導だけでなく、家庭訪問、訪問看護及び介護、学校での教職員への指導・実習受け入れ、地域諸機関への協力など、多くの労力と時間を割いてきました。

その中で意思表示もままならない子供達が介護をしてくれる人と心を通わせ自己主張し相手の気持ちを察する力を身につけてきました。

医療的ケアはただ生活を支えるだけでなく、子供達が自分の体を認知し発達するために大きな意義があることがわかってきたのです。

自立支援法など厳しい法改定のなかで、ますます家族の負担が大きくなりつつある今、今年度の「医療的ケアについての再検討」が、子供達の発達と生活を守る方向であるようにしっかりと見守っていききたいと思っています。

第四十八回 多摩小児神経懇話会

医務部長 赤星恵子

平成十八年六月十六日土曜日午後二時より、当院通園棟二階職員研修室にて多摩小児神経懇話会が行われました。

この会は、多摩地区の小児神経に携わる有志が持ちまわりで年二回集まり、よりレベルの高い医療を実践するために診療や診断について質問、討議をする懇話会です。今回も各医療機関より、五十名近い先生方が参加され、熱い議論が交わされました。

第一セッションでは、当院の木下さおり先生より、重症心身障害児にしばしば認められる難治性周期性嘔吐症の症例の提示があり、病態や治療法について多くの先生方からご意見をいただきました。

次に、都立東大和療育センター小児科、西條晴美先生から脳脊髄液貯留の症例が提示され、発生機序や手術を含めた治療の可能性について話し合いました。

国立精神・神経センター武蔵病院小児神経科の遠藤雄策先生より、退行症状と両側尾状核病変を伴った症例が提示され、ライソゾーム病などを含めた代謝性疾患、脳症などの診断の可能性について討議されました。

第二セッションでは、都立神経病院脳神経外科の谷口真先生より、不随意運動で発症したモヤモヤ病についての報告があり、神経病院における平成九年からの二十七回のモヤモヤ病の手術の経験から、血行再建

手術の方法とモヤモヤ病の治療についての講義があり大変勉強になりました。

また、都立神経病院小児神経科の花房由季子先生よりは、下肢帯筋に石灰化を認めた症例の提示が見られ、所見、経過、治療とともに筋肉内に石灰化をきたす疾患の鑑別について勉強することが出来ました。

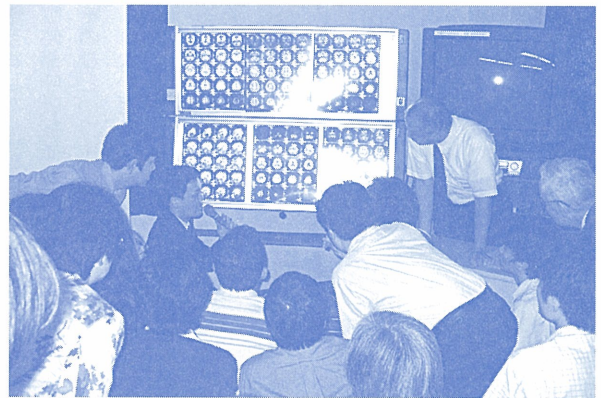
続く第三セッションでは、杏林大学付属病院、小児科中村由紀子先生より、精神症状を伴う溶連菌感染症後糸球体腎炎の症例が発表され、抗生剤とステロイド治療に速やかに反応した治療経過、過去の報告との比較などが報告されました。

さらに、都立府中療育センター小児科小林朋佳先生と都立神経科学総合研究所臨床神経病理林雅晴先生よりは、脳出血を呈した全前脳症の症例について臨床病理学的な見地よりご講義いただきました。

最後に、島田療育センター小児科の上石晶子先生よりは、腎不全を伴った四番染色体異常症候群の病理について詳細なご報告をいただきました。

発表終了後、六時からは訓練棟二階の食堂において懇親会が開かれ、当院給食課の大塚さんチームによるご馳走をいただきました。会員の先生方との親睦を深めました。

今回の先生方の発表を通じて、診断や治療の向上は多くの先生方の地道な経験と努力の積み重ねの上に成り立っていることを改めて感じさせられました。現状に満足することなく、常に高いレベルの医療を求めて日々努力していかなければならないと思います。



症例検討の様子

手術・薬物・放射線 リハビリテーション

東邦大学リハビリテーション
医学研究室教授 原田 孝

私共の施設の療育には多くの医療関係の方々がご協力下さっております。

今回は原田 孝先生（東邦大学教授・社会福祉法人鶴風会理事）にリハビリテーション医療について解説していただきました。同先生は長年にわたり、その高弟の方々と共に本施設の医療に理解と実践の両面で協力に支援して下さっている貴重な方です。

医学の治療手段は手術・薬物・放射線・リハビリテーションの四本柱から成り立っている。手術療法は病的臓器を摘出

する・人工臓器に置き換える・切開排膿するなどである。一人の患者さんに手術療法と保存的治療を比較することは困難である。薬物療法は生体内には存在しない物質を生体外から投与・注入する作業である。ひとたび投与したら再び体外へ取り出すことは困難である。放射線治療は照射部位・線量・合併症・癌の告知などが問題となる。

リハビリテーションは基本的に生体へ物理的的刺激（運動・言語・呼吸・嚥下などの促進）を与えて生体の持つ治癒力を引き出す作業である。合併症が危惧されれば物理的的刺激を中止すればよい。代償的治療手段としてのリハビリテーションは生体の合目的代償的防御反応を最大限に引き出す治療手段であるともいえる。

リハビリテーションの治療は代償的治療手段によって行われるという身近な一例を挙げると、麻痺・痛み・筋萎縮・関節障害などが原因で身体移動・歩行に支障を来せばT字杖を使用する↓松葉杖・ロフトランド杖を用いる↓装具を処方する↓車椅子で移動するなどの代償的手段によって治療が行われる。

次に生体に何らかの不都合（障害・傷害）が発生すると物理的的刺激によって合目的代償的反応が引き起こされるいくつかの例を挙げてみよう。

①脳性麻痺児の股関節脱臼に対して訓練で抗重力姿勢をとらせることにより新臼蓋の形成と骨棘形成がもたらされ体重の支持が可能になる

- ② 脳血管障害の片麻痺症例では大腿四頭筋の筋力低下に対して反張膝や内転筋によって代償される
 - ③ 変性した股関節・膝関節軟骨に対して適度な運動負荷を加えれば骨棘が発生して関節面を拡大することが出来る
 - ④ 骨粗鬆症は容易に病的骨折を起こすが同時に進行する筋萎縮は骨関節にかかる張力を減少させて傷害の発生予防に合目的に作用している。従って骨粗鬆症の運動療法では張力の発生が大きいタイプ2線維（白筋）の強化よりも姿勢保持筋・関節支持筋であるタイプ1線維（赤筋）の筋再教育に主眼をおくべきである
 - ⑤ 関節リウマチの手関節では装具療法で無理なく良肢位で関節強直となつて固定されリウマチの活動が終息する
 - ⑥ 椎間板障害の発生は腰背筋の運動療法によって脊椎骨の骨棘形成や項中隔石灰化を引き起こして脊椎に制動作用をもたらして脊髄を保護する
 - ⑦ 立位姿勢で猫背（胸椎後弯が増大）になると頸椎前弯が強くなり骨盤の傾斜角度が減少し股関節・膝関節屈曲位・足関節背屈位をとつて重心線のバランスが改善されて体重の支持に要するエネルギー消費も少なくてよい。
- 以上のような運動器官の障害・傷害に対して徐々に進行する合目的代償的現象は物理的刺激（リハビリテーション）によつてもたらされる生体反応である。このような生体反応は年齢・性・生活歴・合併症などによつて修飾されるがリハ的

治療の良否によつて減速または加速されるものと思われる。このような生体反応を分析・評価し統合してリハビリテーションの治療手段の考への中にもっと取り入れて体系化することが出来ればリハ医学の *identity* を更に高めていくことが出来るのではないかと考えている。



原田先生の診察

歯科外来について

歯科医師 萩原麻美

当院歯科室は一九八〇年一月に開設され、二十六年が経過しました。開設当初は入所利用者を対象に月二回の全身麻酔下集中治療を行っていましたが、一九八二年から外来利用者の診療も受け入れるようになり、現在では口腔ケアの観点から入所利用者だけでなく外来利用者の方へのQOLの向上に寄与しています。

一 歯科外来体制について

開設時は月二回から四回の非常勤歯科医師が交替で診療していましたが、一九七七年三月より地域の歯科医師に週一回、一九九八年四月より週二回外来診療に協力していただけるようになりました。さらに二〇〇一年四月からは常勤の歯科医師が勤務するようになり、月曜日から金曜日まで毎日外来診療を行っています。現在では常勤歯科医師二名の他、常勤歯科衛生士もスタッフに加わりより充実したサービスを提供できるようになりました。

二 歯科診療の実態について

年度別歯科受診者数（図1）
地域の歯科医師が診療に加わり、週二回診療を開始した一九九八年以降、歯科受診者数の著しい増加が認められました。常勤歯科医師が加わった二〇〇一年以降は年間約千九百名となっております。



歯科外来スタッフ

新患・再来別にみると一九九八年までは新患・再来の割合はほぼ半数でしたが一九九九年以降、新患数に変化は認められませんが再来者の割合が急増しています（二〇〇四年度九十二％）。これは外来診療日が増え、より利用しやすい歯科外来になつてきたことを示すと考えられます。

入院・外来別にみると開設当初は入所者中心の診療でしたが、二〇〇四年度では十二％に低下し、外来利用者の急増が認められます。これは開設以来入所者に対する歯科治療と口腔ケアが実施されたことにより、入所者の口腔衛生状態が改善されたことによると考えられます。

診療形態の推移（図2）

当院歯科は他障害児・者施設と比較すると就学前の重症児および特に最近では発達障害児が多いのが特徴です。そのため通法での診療に対して歯科治療に対する恐怖感や治療の必要性を理解することができないために良好な協力が得られない場合、よりリラックスした環境下にて診療を進める目的で薬物による行動調整法すなわち、外来での静脈内鎮静法および全身麻酔法を用いた集中治療を行っています。二〇〇一年からはプロポフォールを使用した外来静脈内鎮静下での歯科処置が開始され、症例数が急増するとともに処置効率が著しく向上しました。さらに発達障害児に対してはコミュニケーションツールを利用することにより、診療場面に慣れる工夫も行っています。

当院歯科は一九八〇年以來、利用者の

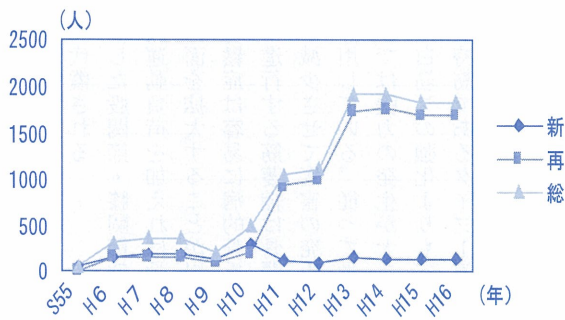


図1 年度別歯科受診者数 (新患・再来)

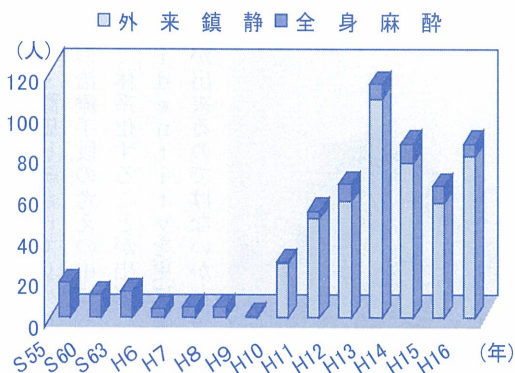
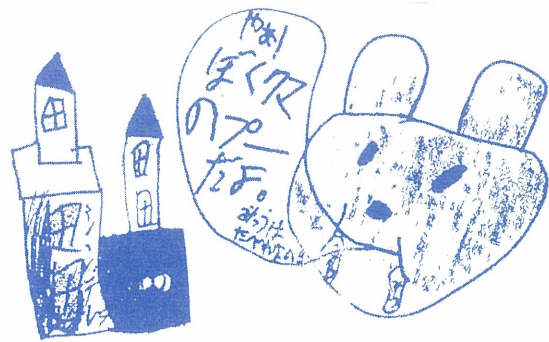


図2 鎮静および全身麻酔下治療数の変化



「ディズニーランド」
東1病棟 齋藤 獵也 (14才)

月刊誌「病院」の取材

六月一日発売の「病院」という月刊誌に当院の記事が掲載されました。

このための取材を、四月一日(金)一日かけて、行いました。

当日は、発行元の医学書院編集部から永さんと落合さん、カメラマンの八木さんの三名が取材に見えました。

事前にある程度計画は立てていきましたが、なかなか時間どおりにはいきませんでした。ここを是非見て欲しい、そんな場面がたくさんあって、つい足が止まってしまう。

午前中の取材は、通園から始まりました。登園バスと利用者さんの様子、青年部の朝の会や、幼少部のこども達とお母様方の活動の様子等、カメラマンの方が撮影している間に、編集部の松永さん達は利用者さんや通園スタッフの取材です。外来の訓練の様子、鈴木先生の診察風景も取材できました。ご家族の皆さんも雑誌への掲載を快く承諾してくださいました。ばらしい写真と記事が完成しました。

午後からは病棟を主とした取材で、院長先生や園長先生にも協力していただきました。

できあがった雑誌は、利用者さんも職員もみんな素敵な笑顔で、見ているこちらにも嬉しくなっていました。特に巻頭を飾った通園の写真はこども達が可愛らしくて、お母様とのスキンシップの楽

しさが伝わってくるようで、見ていて幸せになる写真でした。改めてプロの仕事のすごさに感心しました。

掲載された記事を読んでみて、鶴風会の理念、東京小児がすでに実践していること、これからやろうとしていることなど、その思いが読む人の心に伝わってくる内容でした。短時間の取材の中で、よくここまで病院の思いを受け止め、まとめてくださったと感心しました。プロですごくいですね。

私達医療の現場にいる者も、胸を張って「プロです！」と言えるように、進んでいきたいと思いました。

(看護部長 秋元美知子 記)



月刊誌「病院」

障害者自立支援法 措置制度から契約制度へ

平成十七年十月三十一日に「障害者自立支援法案」が成立し、十一月七日に公布されました。それに伴い、重症心身障害児施設、肢体不自由児施設については、平成十八年十月一日から、措置制度から利用者ご自身が選んだ施設と直接契約を結ぶ、契約制度に変わりました。

これらの動きに合わせて、当法人では、平成十八年一月に「自立支援法対策委員会」を立ち上げ、その後の対応事項の検討を始めました。また、それと並行して、職員向けの勉強会や、ご家族の方向けの説明会を実施いたしました。実際の利用者負担額がどれくらいになるのか等、具体的な内容がなかなかはっきりしない時期が続きましたが、重症心身障害児(者)を守る会の働きなどにより、年金の一部が日常費として(障害者基礎年金一級の場合は二万八千円)残ること等が漸くはつきりしてきました。この間は、厚生労働省のホームページを見ながら、新しい情報を得、ご家族ごとに説明を重ねてまいりました。ご家族の不安は当然のことながら、職員も、情報収集や内容の解釈に頭を悩ませる毎日でした。

七月中旬にやっと東京都の各施設向けの説明会が行われ、それに続き、七月三十一日を皮切りに東京都の「利用者・保護者向けの説明会」が開かれました。施設を利用するための東京都への申請手続

きの開始です。

「当法人では、九月三日に「施設利用契約及び日用品日についての説明会」を行い、契約書の内容と、日用品費は、利用者それぞれの方のオムツの使用の有無に応じて算定すること、実費のかかるサービスとその種類についてなどをご説明いたしました。契約書について一部修正の提案はあったもの、ご参加の皆様のご了解を頂くことができました。そして九月十七日から、施設利用契約の締結に入りました。契約対象の利用者の方々は、引き続き当法人施設を利用されることとなっております。

これからも引き続き、利用者・ご家族の方々のお話をうかがいながら、生活の質の向上を図って参りたいと存じます。又、始まったばかりの制度ですが、重症心身障害児施設、肢体不自由児施設については、平成二十一年に見直しをすることが決まっております。これから制度がどうなっていくのかを、ご家族の皆様と一緒に、しっかりと見ていかなければならない状況にあります。今後の推移については、わかり次第新しい情報をお知らせしていくつもりでありますので、よろしくお願いたします。

(療育部長補佐 松岡清子 記)

ふれあい看護体験

ふれあい看護体験とは、都民が医療関係者との交流や患者様とのふれあいを通

し「看護」「人命」について理解と関心を深めることを目的に毎年、「看護の日」や「看護週間」の前後に看護協会主催で行われている催しです。

当院も、今年、五月十四日(日)に看護学生一名、看護師を目指している高校生三名を受け入れました。

当日は、十時に集合して頂き、当院ユニホームに着替えて、病院紹介、院内見学を終えた後、すぐらん病棟で早速看護体験の開始です。はじめ、戸惑いの表情を見せていたメンバーですが、子供たちからの、声かけで、徐々に表情も和らぎ、体位変換や排泄介助、バイタル測定の実験をして頂きました。

看護体験をした高校生の感想文に「膝の上に抱いてお話をすると、言葉がなくても、喜んでくれてる声を出したり、表情が笑っていたりしてとても嬉しくなりました。障害の重さは、一人一人違うけれども自分が出たことを一生懸命にやっている姿に感動しました。看護師も人手不足と聞いて、将来は看護師になりたいと改めて、思いました。」と書いていました。

また、看護学生は、「スタッフのみんなや、病棟の雰囲気がとても暖かく、プレイルームの子供たちがのびのびと過ごしていたのが印象に残った」と言っていました。その後もボランティア講座への参加や、ボランティアを経験しています。

時間にして、五、六時間のふれあいでしたが、彼女たちに障害児看護の魅力

少しでも感じてもらえれば、と考え対応しました。このことがきっかけで数年後、この施設のことを思い出し、また訪れてくれることを、期待し、来年も引き受けていこうと思っています。

(看護副部長 小谷とみ子 記)



聴診体験中



プレイルームでの一時

ボランティア講座開催

今年度は六月から十一月まで、月一回の全六回シリーズでボランティア講座を開いています。

毎回、高校生から社会人までの二十数名が受講。受講生の方には、講座以外に病棟へ遊びに来たり、みどりまつりに参加する等積極的に関わって頂いています。第一回〜第四回までの講座内容と受講者の感想をお伝えしたいと思います。

第一回 『車いすで散歩に出よう』

病棟訓練室にて、ボディメカニクス（身体の動かし方・介助の仕方）・車いす操作や移乗介助の仕方をまずは受講者同士で体験してから、実際に利用者の方も介助。次に戸外へ出て車椅子体験（実際に乗ったり、押ししたり）をしました。

（感想）

●車いすの操作が難しかった。特に段差に苦労した

●将来介護の仕事がしたいので、直接体験ができてよかった。

●車いすの乗降で利用者とふれあうことができてよかった。

●車いすに初めて乗り、もつと乗り心地のよいものだと思っていたが、実際はそうでもなかった。

第二回 『利用者と一緒に遊ぼう』

当院ST高泉氏による講義「障害児者とのコミュニケーションの取り方」の他、利用者として「わらべ歌体操」「エアートランポリン」「ゲーム」などをして一緒に

楽しみました。

（感想）

●コミュニケーションをとる方法は言葉以外にいろいろある事を改めて考えられ良かった。

●「ビッグマック」を初めて知り驚いた。トランポリンを嬉しそうにしている利用者さんを見てこちらも嬉しかった。

●わらべ歌体操は、どこまで動かして平気なのかよくわからずおっかなびっくりやってしまったが、良い経験になった。

第三回 『摂食の援助方法を学ぼう』

当院OT小畑氏による講義で、食事の意義、嚥下のメカニズム、基本的な食事介助の仕方などについての話の他、受講者自身に流動食を意識しながら食べてもらったり、介助し合う体験をしました。その後病棟で実際に利用者の方の食事介助をしました。

（感想）

●いつも何気なく食べているが食べる時に必要な機能や力の多いことを実感した。それぞれの方にあった援助をする事が基本だとわかった。

●お茶を固めて飲んでいることに驚いた。食べ物を口に運ぶと嬉しそうにしてくれて私も嬉しくなった。

第四回 『医学的に診た障害児者の特徴』

当院小児科松田医師による講義で、障害の種類や療育また脳性マヒ・自閉症・ダウン症の説明、医療的ケアについて等体験をまじえながらのわかりやすい話でした。

（感想）

●写真や実物を見ながら学べたので、楽しかったです。大学でも同様の勉強をしていましたが、痰の吸入器等は初めて体験したので、とても貴重な経験となりました。障がいをもつ人の立場、目線に立って障害をもつ人と接することの大切さを改めて実感できました。

（ボランティア委員会）



移乗介助の実践

ボランティアさんを募集しています！

ご協力下さる方は、
ボランティア委員会まで
ご連絡下さい。

電話042(561)2521

担当 高野



体位変換指導



あしはま

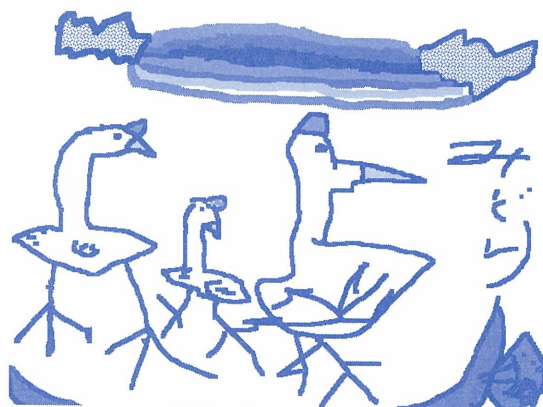


「ヒーロー」
東1病棟 黒田佳歩（10才）

平成18年度下半期行事計画

	東京小児療育病院		みどり愛育園		みどり愛育園通園	
	東1病棟 日付・行事名	西1病棟 日付・行事名	東2病棟 日付・行事名	西2病棟 日付・行事名	幼少 日付・行事名	青年部 日付・行事名
11月		5日(日)日帰旅行	12日(日)アスレチック大会		8日(休)七五三	
12月	17日(日)クリスマス会	10日(日)クリスマス会 21日(休)忘年会	17日(日)クリスマス会	17日(日)クリスマス会	2日(出)クラス発表会	14日(休)パーティー
1月	1日(日)新春を祝う会 ~2日(月)	7日(日)成人・還暦を祝う会 18日(休)新年会 (餅つきを兼ねる)	1日(日)初詣 ~3日(火) 7日(日)成人式及び新年会	7日(日)成人式	20日(土)餅つき 31日(休)豆まき	11日(休)成人を祝う会 11日(休)新年会
2月				3日(出)節分	28日(休)ひな祭り	1日(休)豆まき
3月	4日(日)お楽しみ会	11日(日)お楽しみ会	11日(日)お楽しみ会	4日(日)お楽しみ会	28日(休)卒園・終了式	

西多摩療育支援センター			
	もえぎ 日付・行事名	楽 日付・行事名	上代継診療所 日付・行事名
11月	15日(休)幼少七五三	中旬 活動交流会	
12月	15日(休)交流パーティー 25日(月)クリスマス会	19日 忘年会	クリスマス会
1月	9日(火)新年餅つき大会 5日(日)初詣	1~3日 新年を祝う会 新年会	新春を祝う会
2月	1日(休)青年節分 2日(日)幼少節分		節分
3月	1日(休)青年ひな祭 2日(日)幼少ひな祭 15日(休)振り返ろう会 28日(休)卒園式		ひな祭り



「鶴の親子と虹」
東1病棟 齋藤 雅也 (14才)

新入職員紹介

東京小児療育病院・みどり愛育園

氏名	年齢	採用日	職種
黛 陽子	34	H18/06/01	看護師
笠井 真紀	37	H18/06/01	看護師
佐藤 恵子	33	H18/06/01	看護師
小林 志保	34	H18/06/07	書記
小割 仁美	32	H18/06/07	書記
渡辺千津子	56	H18/06/07	書記
村山 陽子	40	H18/06/16	療育員
齋藤 利広	29	H18/07/01	療育員
松本 敦子	32	H18/07/01	療育員
田中絵津子	26	H18/07/01	療育員
田中 真弓	43	H18/07/01	在宅支援
市川恵美子	40	H18/07/01	在宅支援
紫芝 直子	36	H18/07/01	准看護師
内藤 洋子	55	H18/07/01	薬剤師
天池かお里	33	H18/07/01	看護師
根岸 光司	22	H18/08/01	療育員
有泉 令緒	30	H18/08/17	書記
関矢 幸子	45	H18/09/01	書記
諸岡 祥子	39	H18/10/01	書記

西多摩療育支援センター

氏名	年齢	採用日	職種
岩崎 敦子	24	H18/04/26	S T
小林 留美	22	H18/05/08	療育員
丸山 淳史	23	H18/06/05	療育員
岩本さとみ	33	H18/06/26	書記
上田 洋子	33	H18/07/01	S T
岩田 潤	24	H18/07/18	療育員
小机久美子	45	H18/07/18	療育員
佐々木富美子	57	H18/08/01	療育員
阿部 利和	39	H18/09/04	療育員

一生懸命頑張ります。
よろしくお願ひします!!

障害児（者）地域療育等支援事業のご案内

東京都より平成9年4月障害児（者）地域療育等支援事業の委託を受けました。東京都の主に西多摩・北多摩で地域生活をしている発達障害児(者)を対象としています。この事業は、地域生活をする上での課題・問題点・悩み・不安などについて相談を受け、施設機能の活用や関係機関との連携を図りながら、自立生活のお手伝いをさせていただきます。利用に関しては、費用はかかりません。秘密もまもりますので、お気軽にご相談ください。

訪問指導事業

障害児者本人やその家族に対して、自宅または通所施設などに訪問して、生活上の悩みの相談・指導・助言などを行っています。作業療法士（OT）臨床心理士・コーディネーターなどが必要に応じてチームを組んで訪問します。

外来指導事業

障害児者本人・その家族・関係施設の職員などに当院にお出でいただき、相談・指導・助言を行います。臨床心理士や医師・看護師・各リハビリスタッフ・コーディネーターなどが対応します。第1または第2土曜日の午前に行います。

施設指導事業

保育園・幼稚園・学校・通所施設などの職員に対し、対象児者に関わる技術指導や発達についての助言などを行います。

作業療法士や臨床心理士・コーディネーターなどがチームを組んで訪問します。

生活支援療育コーディネーター

- ①地域生活における悩み・不安などの相談（訪問相談・電話相談）
- ②福祉制度・サービス利用の調整・助言
- ③児童相談所や福祉事務所などの行政機関、学校・保育園・施設等の関係機関との調整
- ④当事者グループへの支援や地域啓発
- ⑤ボランティア育成
- ⑥地域生活援助プログラムの作成・助言などを専任の職員（コーディネーター）が行います。

まずはお電話ください

東京小児療育病院：コーディネーター室 TEL：042-561-2521 FAX：042-566-3753

西多摩療育支援センター：コーディネーター室 TEL：042-559-2241 FAX：042-532-5072



社会福祉法人 鶴風会
後援会 だより

今思い出す

三河石油(株)代表取締役 井上 瑞穂

今思い起こすと鶴風会にご縁をいただいて三十数年になります。何も世間を知らない田舎者の私を長年にわたり、国内といわず外国までもいろいろな場所、いろいろな人々との出会いを作って、ここ迄導き育ててくださったのは鶴風会役員のお一人であらう。二宮文乃先生あつての事と、今更ながらの思いです。とかく人の事には無関心になった世の中にあつて、相手を思いやり、弱者をいたわる心、大きな心で社会を見る事もおそわれました。

前と比べれば障害者の方を街で見かける事が多くなりました。まわりの健常者の行為も目立つ様になり、この頃はその為にながら痛みます。五年程前から自分がリウマチになり、この二年程、外出には車椅子を使うようになりましたが、街中に出るのがとても嫌です。道路でもデパートでも行く先々で「ごめんさい」「通してください」この言葉を何度口にしなければならぬか悲しくなります。そんなとき「はぐくむ」が送られてきます。その記事を見て、施設のお写真を見て、どんなに気持ちがいやされるかわかりま

せん。

随分前になります。が病院など鶴風会の施設を二宮先生と訪問した事があります。その時の様子が昨日のこの様に脳裏をかすめます。車椅子でも身動きもできない人、ベットにじつと横になっている人、唯、床に座っている人、その人達の間を忙しく働いていらつしやる介護の人々のきびきびした動き、明るく優しい笑顔が忘れられません。「はぐくむ」のむこうにそんな人々が今もあるのだと思いを新たにされます。私の力では何も出来ませんが、オルフェの会に出席したり、バザーに参加したりの小さな行為ではあります。が、鶴風会とご縁が続いている事が嬉しく思っております。

誰も好きこのんで障害を持つわけではありません。人間は自分自身がその立場にならないとわからないものなのでしょう。か。それではあわれです。教育改革、医療改革と立派な事を並べる政治家の先生方も今の子供達の日常の生活を思いやることがあるのでしょうか。ましてや障害者のことなど上辺だけみて何か余程の事が起きなければ問題にもしない人が多い様に思います。そんな中でもっと多くの人に鶴風会の存在を知らしめたいという思いでいっぱいです。その運営がどんな

に大変か、そして多くの民間のお医者様がボランティアで運営に参加されているか、その事実をもっと世間の人々が知るべきです。矛盾だらけの社会にあつて、どうしたらという思いばかりが先走って何もない自分がとても腹立たしくなることもあります。他人の不幸など知る由もなく、どんな事も無関心ということが常となつてしまった世の中にあつて、自分だけはせめて身の回りのことだけでも目を配って生きていきたいと考えます。

幸い私には大勢の友人、働いてくれる社員があります。その人達が困つていれば相談にのり、仕事のことでも家族のことでもお節介と言われても口を出します。ある友人の息子さんが一歳の時心臓手術の失敗で下半身不随になったのですが、今公立の専門学校の二年生です。自分の進む道、生きる目標をしっかりと持ちそれは見事な生き方をしています。小さい頃は親も子供を人前に出さないようにしていましたが、ある先生にめぐり逢いその指導で両親が思いをかえられました。本人の努力もさる事ながら、親の存在がどんなに大きいのか、親が子供を育てるのは当たり前なのに、その当たり前が軽んじられていないでしょうか。子供を教育しなければならぬ今の親の方を教育した方がよい様な事柄にぶつかることが多くあります。誰を教育するか根本から考える時にきていのではないのでしょうか。

オルフェの会のお知らせ

いつもチャリティーコンサートにご協力いただき有り難うございます。

今年もオルフェの会を開催することとなりました。今年ドイツからヴァイオリニストが来日し、日本のメンバーと共に本施設のチャリティーに出演して下さいます。

皆様お誘い合わせの上、多数ご参加下さいますようお願い申し上げます。

チャリティコンサート
～オルフェの会～

と	き	平成18年12月3日(日)
受付	時間	11:30
開	始	12:00 (開宴、開演)
と	こ	新高輪プリンスホテル
出	演	コー・ガブリエル・カメダ(ドイツより来日)
		と東京チェンバーフィルハーモニック
会	費	25,000円

鶴風会後援会へご寄付者ご芳名
平成十八年四月〜平成十八年八月
名(五十音順・敬称略)

青木 悦・青木りう子・浅川 恭行
浅見 薫子・朝山 裕・足高 毅
阿曾須巳子・足立 嘉子・足立茂代子
阿部 雅章・安部 良治・新井 京子
新井 恒子・荒井 陽子・安西偕二郎
飯山 恒子・池田喜久子・石北 寿子
石原 麻紀・板橋 保・市来フジエ
伊地 柴敏・伊藤 文子・伊藤 禮
猪俣賢一郎・井上 瑞穂
鶴川美登里・宇多 陽子・内田 耕
内田 幸子・梅田 寛子・梅田 嘉明
大貫 淳・大関 忍・大橋 和男
大脇 照枝・岡田 研吉・岡田 道子
緒方 月・小川 再治・小川 昭子
沖野 佳子・奥村 研三・小澤 翠
忍足 正之・小原 該一・小原 明
柿添 瓊子
鶴風会鹿兒島支部
加次井育子・柘原 宏久・勝目 幹郎
勝田三枝子・加藤 葉子・門屋かずこ
金森 勝士・金子 晴生・金親 正敏
鎌田 直子・川上 武子・河津 緑
岸 芳正・岸本 篤郎・鬼頭 秀明
木村 京子・木村 郁子・木山 博夫
清原 頼子
楠 后代・久保 初美・桑原 耕三
月花 亮・小泉 一介・小泉 美子
小出 誠・越島新三郎・越島康太郎

越島 知子・越島謙次郎・越島 園美
小菅 孝明・後藤加寿美・小林 温子
小林純二郎・小林久美子・近藤 弘子
今野 信子
齊藤 勝・齊藤 英子・齊藤 長則
西條 公勝・齊藤 伸行・齊藤 康子
齊藤 欽子・先山 隆司・佐々木道子
指田 和明・佐多 由紀・佐藤 裕美
佐藤 麗子・佐藤 和子・佐藤 芳子
佐藤 ち江・佐藤 幸子・佐藤 中
佐藤 重雄
塩野 則次・志鳥眞理子・渋谷 昌良
渋谷 朝子・島 和・嶋田 寛子
清水 一輝・清水 葵・白木善四郎
菅野 訓子・杉本 寛子・鈴木 秀明
鈴木 稔・鈴木 和子
芹澤 滋幹
相馬 直子
高木 利明・高橋比路美・田賀 丈夫
高桑 幹雄・高槻 義夫・竹沢 修一
竹中希久夫・武田みつ子・多田 久人
伊達 愛己・伊達 陽子・田中 明美
谷 絹子・田宮三鶴代・田宮 親
千輪 絹子
壺阪比路里・鶴岡 康子・鶴岡 美果
豊島 久子
中川 雅明・中谷 尚登・中園 宏紀
仲村 健一・中山みよ子・中村みゆき
長岡 貞雄・中平 貴子・並木 温
西沢 憲司・西宮 常代・西平 守夫
野沢 良美・野沢 和弘・野沢トヨ子
野沢医院基金箱

野村 直子・橋口 玲子
長谷川幸子・畑 靖子・峰谷イソ子
浜田 雅・早川 浩市・早原 千鶴
林 馨・原田裕美子・原田千鶴子
原山 国秀
檜垣 有徳・東山 都紀・平田 徹
平岩扶美子
福田 静子・福田 美枝・藤井 京子
藤田ルリ子・藤野 隆子
発地瑠璃子・堀 友之進・本田千代子
本間 義章
前田 澄子・牧野 アツ・正林 婦美
馬嶋 順子・増田 和人・増田あや子
松本 知子・松岡 昌子・松原 龍弘
丸山 和子・三田 美子・宮崎 和
宮本 みち・三宅 三
向山 秀樹・向山 和代・向山 徳子
村川 杏奈・村川世津子・本明 啓子
森下 里子・森 克彦・諸富 杏子
矢島 定子・安土 達夫・矢野 春雄
山出 孝子・山門 誠・山崎 郁
山崎 毅樹・山村 憲・山本みどり
山田三枝子
横田 照衛・横手 方・吉見 梓
渡辺古都江・渡辺 徳明・渡辺 和子

社会福祉法人鶴風会へご寄付者
ご芳名(法人・団体・個人)
平成十八年四月〜平成十八年八月
名(五十音順・敬称略)

村山養護学校主任手当委員会
西多摩地区障害児・者親の会連絡会

東京小児療育病院
みどり愛育園へご寄付者ご芳名
平成十八年四月〜平成十八年八月
名(五十音順・敬称略)

東京小児療育病院・みどり愛育園父母の会
東京小児療育病院・みどり愛育園父母の会
後援会
西多摩連絡会
立川酸素(株)
かりんの会
我妻 博之・板垣 祝夫・伊藤 あつ
伊藤 一志・伊藤丸一郎・宇佐美寿一
海老原健介・大家 清子・上岡 謙夫
神谷 英則・齊藤八重子・瀬野 国男
竹内 道子・田中 是継・橋詰 美佐
前田 稔・松尾 賢二・松本 誓子
松山 文夫・三村光太郎・守田 洋
山内トシミ・山谷 敏男

安部 浩一・阿部美代子・伊藤 雅子
江田 周二・海老原健介・大串 保雄
大場 吉延・岡松 真幸・長田 和久
小嶋 伸江・斎藤 真治・齊藤 雅彦
篠 智子・高橋 京子・高橋 孝彦
竹中 幸宏・中里由理枝・萩原 真治
馬場 節子・馬場 文彦・松山 穂豊
山下 順子・渡辺 晃